第７１回日本ＰＴＡ全国研究大会　広島大会　感想文

大阪府ＰＴＡ協議会　副会長（泉南地区）　森本　和彦

日にち：　令和５年８月２５日（金）～２６日（土）
１日目：　第５分科会　広報活動　（広島県福山市　福山ニューキャッスルホテル）
２日目：　全体会　（広島県広島市　広島県立総合体育館　広島グリーンアリーナ）

●１日目　第５分科会　広報活動
・基調講演　道佛　一郎　氏　「ＰＴＡの活性化を図る効果的広報活動の在り方」
・実践発表　竹内　淳子　氏　（香川県立高松北中学校・高等学校ＰＴＡ）
　　尾長　佐知子　氏　（香川県立高松北中学校・高等学校ＰＴＡ）
・パネルディスカッション
◇基調講演
　ＰＴＡの広報活動、特にチラシを作成する際の内容を重点的に、道佛氏が実践した例も出しながら講演いただきました。各ＰＴＡで作成されるチラシ等は、前例を踏襲する形となっている場合が多く、負担の割には成果が芳しくない場合が多いと思われる。一番大事なことは、目的を考えて発信するのが良いとのお話でした。例では、「お父さん会」というものがあり、過去はプリントに文字がびっしりで、「会員募集」という文字を大きく載せていた。しかし、目的を考え、「会員募集」をメインにせず、お父さん会の「存在を知らせる」を主眼に置く。楽しそうなお父さん達の写真を載せ、チラシを見た人が「楽しそう」などのイメージを湧くようにする。また、ＱＲコードでスマホから簡易に入会登録ができるようにして入会のハードルも下げた。そうしたら、入会数が激増したとの事。各ＰＴＡでも、パソコンやデザインを得意な人がいると思うで、探して見つけるとよいのではないかという内容でした。

◇実践発表
　ＰＴＡで中学３年生の受験生向けに、受験時に欲しい情報である、各高校や学費・先輩方の勉強の方法・先輩からのメッセージ等を載せた資料を配布していた。その資料を刷新し、見易くやり直したものが日Ｐで表彰された。実践者は学生時代レイアウトを学んでいた方。実例をもとに発表された。既存は、紙に文字がびっしりで色使いも多く、情報量が多過ぎる。作る側としての、たくさん載せたい気持ちは重々分かるが、ごっそり減らして、すっきり見やすくした。色も使い過ぎていたものを減らしたら、見易くなったとの事。
　今回、試行錯誤してデザインを再配置したが、その際最低限の決まりなどがあるのも分かり、マニュアル化して次世代につなぎたい。例えば、紙の端四方の１センチは印刷ができないなどがあるのを引継ぎたい。その引継ぎに課題があるとの事。

◇パネルディスカッション（討論）
　どうやったら広報を引き継げていけるのか。自分の代でいいのが出来たのを引き継ぎたい。ＰＣなどが得意な人がいるはずなので、その人見つけられたらいいとの内容でした。

◇感じた事

広報は、お知らせしたい内容がいっぱいあるのを、ぐっとこらえてポイントだけ示すのが正解なのだろうと感じ勉強になりました。

また、自分たちで新しく開拓すると、やりがいが出て楽しい、面白いとなるのだろうと思う。目的を考え、必要と不必要を取捨選択し、主体性を持ってやるのがよいのだろうと感じました。

気になった点として、開拓すると、問題が発生し解決に試行錯誤して苦労するので、次世代が苦労しないように引き継ぎをしたいという。手っ取り早いのはマニュアルで、次世代へつなぎたいという。ただ、私はそういう引継ぎが、次世代に負担となりＰＴＡが敬遠される所以ではないのだろうかとも感じました。また、講演でも、実例も、得意な人を見つけるとあったが、結局得意な人へ負担がいくだけではないのだろうか。できない人が、勉強してでもやりたいと思わせるような仕組み作りが必要なのかなとも感じました。

●２日目　全体会

・マリンバの演奏　子どもたちが凄く楽しそうに演奏して我々を迎えてくれる。

・式典

・全体記念講演　黒川　伊保子　氏　「心のトリセツ」

◇全体記念講演

何か問題が起きた際には、人には２パターンのタイプがある。「ことのいきさつ派」と「今できること派」である。例えば、子どもが熱を出した際の行動を考えると、「子どもが昨日何か悪いものでも食べたのか？今まで熱を出した際の原因は何があったか？」とか、過去を振り返るのが「ことのいきさつ派」で、「熱は何度だ？」「氷枕を用意しよう。薬はあるのか？」とか、今できることを考えるのが「いまできること派」である。例えば夫婦でこのパターンが違うと、子どもが熱を出している緊急事態に、相手（夫から見た妻。または、妻から見た夫。）は、なんて的外れな行動をしているのかと、腹立たしく思ったりする。

この様に自分の目の前の人が、自分と異なる思考（考えや行動）をしても、自分とは違うタイプだと理解すれば、腹が立つなどの問題が避けられるのではないかとの事。他人が自分と異なる考えや行動をした際に、怒りを持ったり、悲しんだりせずに、受け止められる様になるのが良いのではないかとの事。

黒川氏は、自分の経験であるＡＩ（プログラム）を持ち出し、人の考えは電気信号と考えているので、違う考えがあっても腹が立たないそうだ。なぜ、そういう発想になるのだろうと興味を持って受け取れるとこのと。皆さんも、他人の考えは電気信号だと考えれば腹が立たないし、平和に暮らしていけるのではないかと助言をいただいた。

◇感じた事。

人間関係のお話と理解しました。他人と自分は違うので、他人が自分と違う発想をしても、「そうだよね」と受け止めることが大事となるし、また逆に、自分の考えが相手に伝わらなくても、これまた自分が「そうだよね」と受け止められることが大事であると思います。黒川氏は、「相手の考えを電気信号」と言われたが、私も今までに同じ様な話で「相手を宇宙人と思え」と聞いた事があるので、同様な事と感じ、どちらも相手を同じ人間と思わず「全然違う何か」と思えば腹を立たずに穏便に生活できる事を示唆されたのではないかと感じました。

それにしても話し方がとても上手であったように思います。話は、「内容よりも話し方」と言う方がいらっしゃったが、その通りかもしれない。とても面白く興味深く聴けました。

●その他

◇府のＰＴＡ事務局で困っていることを聞いた

・議題の次第の発送、会議録の周知の方法。

・お金のやり取り。

事務局の負担となっているのは、できるだけ軽減したいと考えます。今すぐに良い案は浮かばないが、常にアンテナを張ってよい方策がないか考えていきたい。

◇懇親会

懇親会の席で、他のＰＴＡの人から、その人が行ったＰＴＡ行事（イベント）の話を聞いた。子ども達も巻き込んで、楽しいイベントができたそうである。準備はいろいろと大変だったけど、当日は目的通り、子ども達に楽しんでもらえたようであるとの事。特に、子どもから「ＰＴＡ楽しそう。お父さんだけずるい。自分も大人になったらやりたい。」と言われたのが一番の誉め言葉で嬉しかった、という話を聞いた。たぶん、そういう状態が一番ＰＴＡとして望ましい状態なのだろうと感じました。

●全体を通して

今回、広島大会まで参加させていただいて、とてもいい経験をさせてもらって勉強になったと感じていいます。昨今ＰＴＡの取り巻く環境は、「ＰＴＡは必要なのか存在意義が分からない。」とか「ＰＴＡに入りたくない。会費を払いたくない。」、「ＰＴＡの役をやりたくない。負担が大きい。」などで、敬遠されがちです。私の単位ＰＴＡでも、役員の立候補は定員の半分程度で、特に負担の大きくなる会長職などは手が上がらず、くじ引きにより行っています。

何故、これほどまで敬遠されるのか。敬遠されるなら無くてもいいのではないか、そもそも必要なのかと改めて考えさせられました。

私の考えでは、自分の子ども達を通わせている学校が、「自分達の学校」という認識が薄くなってきているのだろうと感じます。市町村などの公共が与えるだけで、大人はそのサービス（教育）を受けるだけの立場と考えているのが大勢を占めるのではないか。もしかしたら、昔は「自分達の子どもを通わせている自分たちの学校」と言う認識が大きかったのではないか。なので、学校が力不足と感じれば、親も学校に入っていき、学校が困っている事や不足していることに力を貸し、協力して一緒に子育てをしていたのではないだろうか。良くも悪くも学校が整備され公的な力だけで運営できるようになり、その親の力を必要としなくなった。それは学校運営が安定してきたという意味ではよかったが、親が学校を支える事や、力を貸すという観点が失われてきたのではないだろうかと感じます。

という自分も、進んで立候補した訳ではないので、大きな口を叩けませんが、推薦していただき、それを引き受けやっているので、引き受けた以上は、１日目で受けた感想である、前例にとらわれず自分が楽しく又はやりがいのあるように努め、２日目で受けた感想である、他者の意見に左右されず（電気信号と捉え）、他のＰＴＡの人とも対話しながら、今後も自分達の子どもが通う学校の一助になるように振る舞いたいと感じました。